

医療福祉・在宅看取りの地域創造会議 通信 第12号 (H26/3/31)



平素は、「医療福祉・在宅看取りの地域創造会議」へのご理解・ご協力ありがとうございます。
1か月に1度発行しております通信も12号を迎え、今年度最終号となりました。出逢いと別れが繰り返される春…。

皆さんは滋賀県から旅立っていった、108mの大観覧車「イーゴス108」を覚えていらっしゃいますか？
1992年、びわ湖タワーに世界一の高さ（完成当時）が建設され、一般公募で「すごい」を逆から読んで「イーゴス」と決まり、琵琶湖畔に佇む巨大観覧車は滋賀県有数のランドマークとして親しまれました。

2001年にびわ湖タワーが廃業し操業が停止されましたが、イーゴスは閉園後も解体されずに残っていましたので、琵琶湖大橋と共に風景として目に焼き付いている方も多いのでは…。現在の所有者である不動産会社の協力の下、「いつでも再開できるように」と元社長が毎月1回（2011年から2カ月に1回）点検・作動をさせて、部品の劣化を防いでおられました。ベトナムに輸出されることが決まり、2013年9月より解体が行われましたが、強度に問題はなく部品もすべて使うことができるとのこと。メンテナンスに携わっておられた方々は、嫁に出す気持ちで見送られたそうです。ベトナムで活躍する姿も見てみたいですね。



第26回ワーキング会議(3/25)

今年度最後の会議を県庁で開催。お忙しいなか31名の方にご参加いただきました。グループワークでの貴重なご意見をご紹介します。



現場のこと、家族・当事者の思いを聞きたい。切り口を詰めて、話が聞けるといい。

医大生や県議員など、さまざまな職種・立場の方が参加しているところがよさ。いろいろな人の話を聞き、交流していきたい。

病院での看取りを多数経験された看護師さんの看取り観「死に様は生き様につながる」

医学生・看護学生と一緒に、先輩のDrにインタビューを行い、在宅医療てびきを作成しよう！

WGメンバーの悩みの事例を報告してもらい、共有していきたい。

在宅看取りのサポーターを募集して、認知症キャラバンメイトのように活躍してもらえよう、地域創造会議で支援してはどうか？

在宅看取りのパンフレットを作成し、民生委員さん等、地域に密着した方に配布してもらっては？

啓発劇の脚本を提供し、地域の医師や市長に出演してもらってはどうか？

フォーラムに知事が参加することは、印象に残っている。

事務局に参画して下さる方を募集します！

事務局会議は、原則として月1回(約1時間程度)開催し、定例ワーキンググループ会議の企画や啓発資材の作成等、地域創造会議の具体的な活動についての検討を行っています。現在、県健康福祉部の職員と市町の職員の方、十数名で事務局を運営していますが、ここに行政以外の会員の皆様にも参画いただき、積極的なご意見がいただければと思っています。「やってみてもいいなあ」という方は、ぜひ下記の事務局までご連絡ください。

次回ワーキンググループ会議のご案内！

新年度最初の会議は、5月1日(木)18:30~20:00(県庁)です。会員の方には、メールで出欠のご確認をさせていただきます。メールリストの移行の都合上、連絡が4月中旬になる予定です。ご了承ください。初めての方で参加をご希望される方は、開催日5日前までに、事務局までご連絡ください。よろしくお願いいたします。



今年度お世話になりました。
来年度もよろしくお願いいたします。

ご意見・ご感想等お寄せいただければ幸いです。
医療福祉・在宅看取りの地域創造会議
運営事務局(滋賀県庁 医療福祉推進課内)

TEL:077-528-3581 FAX:077-528-4851
E-mail:info@chiikisouzoukaigi-shiga.jp



~平成26年度の地域創造会議の活動に向けて~

平成25年度は、より多くの方々にご参加いただけるよう大津、草津、野洲、近江八幡、彦根と県内各地に向いて、定例ワーキンググループ会議を開催しました。また、各地域での実践を情報共有し、それぞれの活動の場で参考にしていただけるよう、年度前半を中心に活動紹介の時間を設け、意見交換を行いました。一方で、総会や県民フォーラムの企画・準備にワーキングの時間を使いすぎたのではとの思いもあり、みなさんが、地域創造会議に参画し、どんな活動をしてきたいと思っておられるのか、ワーキングはどんな場になればいいと思っておられるのか、ぜひ、創造会議の活動への思い・意見をお寄せください。

○地域創造会議の活動で大事にしていきたいことは…

日常生活圏域(各地域)での実践者であり、地域包括ケアを構築するKey Person(地域のリーダー)となり活動してくれる人材(自覚者)が自主的に集い、情報交換し、学び、アイデアを出し合い、情報発信し、顔が見える関係(実践者のつながり)をつくっていくこと。

→その中心となる毎月の定例ワーキング会議の活動は、こんな場面でできるとよいのでは？

★いつでも・誰でも、参加できる→自由・緩やかな集まり

★また参加しよう・知人を誘おうと思える→魅力・新たな出会いがある場

★アイデアを「見える」形にしていける場

<平成26年度の活動(素案)>

○定例ワーキンググループ会議
先駆的な取り組みや地域にねざした活動の事例等についての活動紹介など、テーマを設け、できるだけ計画的に開催する。会員以外の医療福祉関係者・行政の職員等にも案内する。

○地域創造会議の活動紹介チラシの作成、初めて参加された人への継続案内などにより、活動への参画者を増やす。

○メディアを活用した広報啓発、県民フォーラムの開催、在宅医療に携わる医師向け手引きの作成等の具体的な事業を実施するための実行組織を設ける。アイデアの募集やそれぞれの進捗状況の報告などは、全体(定例ワーキンググループ会議)で行う。

